

MUCHO-E ファームウェア拡張のお知らせ

このたびは、MUCHO-E をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
今回お買い上げいただきました MUCHO-E のファームウェアでは、以下の機能がサポートされています。

- ・ i・ナンバー対応
- ・ MTU 長変更機能
- ・ データ圧縮機能
- ・ Hotline 機能
- ・ フレッツ ISDN 接続

これらの機能につきましては、取扱説明書に関連する記載がありませんので、この資料を参照し、設定 / 運用を行ってください。

1 . i・ナンバー対応

NTT グループよりサービスが提供される「i⁽⁷⁴⁾・ナンバー」に対応いたしました。

i・ナンバーを利用すると、INS ネット64 / INS ネット64 ライトの2本のチャネルに別々の番号を割当てることができます。つまり、MUCHO-E に接続した2台の電話が別々の番号をもてることになります。

- ・ 家族用 / 子供用といった着信者別
 - ・ 電話用 / FAX 用といったメディア別
 - ・ 仕事用 / 家庭用といった目的別
- 等の使い分けも簡単に行うことができます。

i・ナンバーを契約している場合は、MUCHO-E で以下の設定を行ってください。

追加番号を登録します。

i・ナンバーでは、契約時に「契約者回線番号」「追加番号」を割当てられます。

MUCHO-E には、「追加番号」を登録しておきます。

MUCHO-E に接続した電話 (TEL ポートはどちらでも良い) で

3 * 8 「追加番号」 #

と押します。追加番号は市外局番を入れないで登録します。

例えば、追加番号が03-1234-5678 である場合は、

3 * 8 1 2 3 4 5 6 7 8 #

と押します。 ("03"は市外局番のため入力しない)

電話の鳴らし方を設定します。

「契約者回線番号だけ鳴らす」「追加番号だけ鳴らす」「契約者回線番号・追加番号とも鳴らす」の中から、設定します。この設定は、各TEL ポートに設定します。

契約者回線番号だけ鳴らす	5 * * # と押す
追加番号だけ鳴らす	5 * * 追加番号 # と押す
契約者回線番号 追加番号とも鳴らす	5 * # と押す

MUCHO-E で、すでにダイヤルインを利用している場合で、i・ナンバーに移行した場合は、 の設定変更は必要ありません。

2. MTU 長変更機能

MTU 長の変更を可能にしました。

MTU 長を変更することにより、最大長の短い回線にも対応できるようになります。

MTU 長の変更はコンソールより、以下の方法で行います。

```
#conf   コンフィグレーションモードに移行
Configuration password:   コンフィグレーションパスワードを入力
conf# mtu on size=256    MTU コマンドでサイズを指定
```

MTU 長は、256byte~1500byte の範囲で指定します。

通常運用では、変更する必要はありません。

3. データ圧縮機能

WAN にデータを転送する際にデータを圧縮して送受信を行うことができます。

データ圧縮を行う場合は、コンソールよりdatalink コマンドで行います。

```
#conf   コンフィグレーションモードに移行
Configuration password:   コンフィグレーションパスワードを入力
conf#datalink -hsd compress=auto,rfc,nopfc
```

回線を指定します。

HSD 回線の場合は[-hsd]、ISDN#1 回線の場合は[-1]、ISDN#2 回線の場合は[-2]

圧縮方法を指定します。

auto: 接続相手と圧縮アルゴリズムのネゴシエーションを行います。ネゴシエーションが完了すれば圧縮データの送受信を行い、完了できなければ圧縮データの送受信は行いません。

fix: ネゴシエーションは行いますが、その結果にかかわらず圧縮データの送受信を行います。データ圧縮の方法は、接続相手と同じものを選択してください。

off: 選択するとネゴシエーションを行いません(データ圧縮の動作を行いません)。RFC1974 に準拠した圧縮を行うかどうかを指定します。MUCHO と接続する場合は"rfc"を指定します。

rfc: RFC1974 準拠に従った圧縮が行われます。

other: RFC1974 に準拠していない一部の圧縮に対応します。

PPP パケットのプロトコルフィールドの圧縮をするかどうかを設定します。MUCHOと接続する場合は、"nopfc"を指定します。

pfc: 圧縮を行う

nopfc: 圧縮を行わない

: 本装置のデータ圧縮は、StackerLZS 方式を使用しています。

4 . Hotline 機能

MUCHO に接続した電話機の受話器をあげただけで , 設定した相手に電話をかけることができるようになりました (Hotline 機能)。

従来よりサポートしていた , オフフック発信との違いを以下に示します .

オフフック発信	装置のディスプレイに発信履歴 / 着信履歴が表示されている状態で MUCHO に接続した電話機の受話器をあげると , 表示されている相手に発信します .
Hotline 機能	MUCHO に接続した電話機の受話器をあげると , MUCHO の短縮登録 00 番に設定してある相手に発信します .

Hotline 機能の設定は、以下のように行います。

ディップスイッチの 4 番を OFF にします。(工場出荷状態では OFF になっています)

Hotline 機能で接続する相手を登録します .

Hotline 機能を使用するアナログ通信機器ジャックに接続した電話機より

0 * 0 0 接続する相手の電話番号 #

と押します。

例えば、Hotline 機能で接続する相手の電話番号が 03-1234-5678 である場合は、

0 * 0 0 0 3 1 2 3 4 5 6 7 8 #

と押します。

: 短縮 00 番は、ホットライン専用になります。

Hotline 機能を有効にします .

Hotline 機能を使用するアナログ通信機器ジャックに接続した電話機より

9 * * 4

と押します。

: オフフック発信の場合は「9 * * 3」, Hotline 機能を解除する場合は「9 * * 2」を押します .

5 . フレッツ ISDN 接続設定

設定する接続相手 (target) が、フレッツ ISDN 契約かどうかの設定が追加になりました。

target コマンドで、指定した相手がフレッツ ISDN 接続の相手の場合に、type=flets を指定します。

```
#conf   コンフィグレーションモードに移行
Configuration password:   コンフィグレーションパスワードを入力
conf# target add name=..... type=flets..
conf#
```

最新のマニュアルは、

<http://www.furukawa.co.jp/network/mucho/HOWTO/mucho-manual.html> にもあります。